

はじめに

若いころ、病院で働いたことがあります。毎日たくさんの患者の対応に追われて、体の病痛だけに着目していました。そのとき、なんとなく医療に対して、違和感を覚えていました。

医療つて、痛みを取ってあげるだけのことですか？ 弱くなった体を強くしてあげることですか？ そうではないような気がしていました。

教科書に書かれた理想の医療は、WHO憲章に書かれているように「人間を体、心、気、などによつて有機的綜合体ととらえ、全体性に基ついた健康観に立脚すること」や「自然治癒力を癒しの原点におくこと」などがあります。最近、有機的綜合体に靈性も加えましたので、もつと全人的な概念になりました。しかし、この理想と現実間の差がまたまた大きいのは皆さんもご存じだと思います。

そのときから夢を持っていました。患者をただの病人としてではなく、血肉があり、感情の豊かな人間としての対象を、サポートしたかったのです。

体の苦痛を治してあげること（厳密に言うと、患者さんの自分の治癒力を引き出して、自分で治ること）、心の声を聞いてあげること（最終的に自分の心の声を聞けるように）。

健康で楽しく、自己実現のできるような人生を援助するような治療家を目指していました。

今1歩踏み出したばかりで、まだまだ努力が必要ですが、少しずつ、理想に近づけようと日々の治療に励んでいます。

さらに、将来、療養型の治療院にするのにも夢が膨らみました。一時でも、体や心、気、また靈性が疲れたら、駆け込み寺のような、桃源郷のような治療院で、心を休息し、体を鍛え、自分の生命力を回復できるところを患者さんに提供できたら、私の人生の最高の目標です。

同じように、この本も健康に関心のある方々にお役に立てれば幸いです。